

プレスリリース



Sri Lanka  
Cultural Heritage of Sri Lanka  
The Land of Serendipity

特別展

# スリランカ

## 輝く島の美に出会う

2008年9月17日(水)～11月30日(日)

東京国立博物館 表慶館 (上野公園) Tokyo National Museum [Ueno Park]



Sri Lanka  
Cultural Heritage of Sri Lanka  
The Land of Serendipity

特別展  
スリランカ  
輝く島の美に出会う

Cultural Heritage of Sri Lanka — The Land of Serendipity

2008年9月17日(水)～11月30日(日)

東京国立博物館 表慶館 (上野公園) Tokyo National Museum [Ueno Park] 

**開館時間** 午前9時30分～午後5時

ただし、会期中の金曜日は午後8時、土・日曜日、祝・休日は午後6時まで開館。入館は閉館の30分前まで。

**休館日** 月曜日

ただし、月曜日が祝・休日の場合は開館、翌火曜日休館

**観覧料**

	当日	前売・団体
一般	1200円	1000円
大学	1000円	800円
高校生	800円	600円

※中学生以下は無料

(生徒手帳など年齢のわかるものをご提示ください)

※団体は20名以上

※障害者とその介護者1名は無料

(入館の際に障害者手帳などをご提示ください)

**チケット販売所**

東京国立博物館正門観覧券売場(開館日のみ)のほか、チケットぴあ0570-02-9999 (Pコード前売:688-206、当日:688-207)、ローソンチケット0570-000-777 (Lコード:35567)、イープラス<http://eplus.jp>ほか主要プレイガイドにて発売。

展覧会公式HPで手数料無料のオンラインチケットも発売予定。

7月2日(水)より前売券発売開始(9月17日以降は当日券のみの販売となります)。

**お問い合わせ**

03-5777-8600 (ハローダイヤル)

**展覧会公式HP**

<http://www.serendipity2008.jp/>

**主催**

東京国立博物館、読売新聞社、スリランカ民主社会主義共和国文化省

**後援**

外務省

**助成**

国際交流基金

**報道お問い合わせ先**

特別展「スリランカ」広報事務局 (ウイングダム内)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F

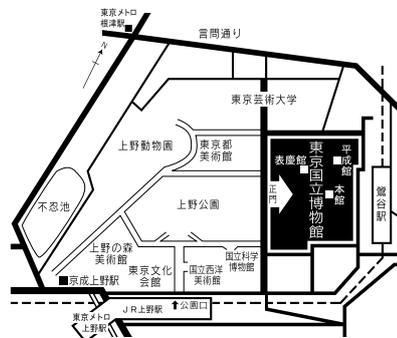
TEL:03-3664-3831 FAX:03-3664-3833 e-mail:[srilanka@windam.co.jp](mailto:srilanka@windam.co.jp)



**表慶館について**

表慶館は1900年(明治33)、皇太子(後の大正天皇)の御成婚を記念して計画され、1909年(明治42)に開館した、ネオ・バロック様式の建物です。

設計は、現在の迎賓館なども手掛けた宮廷建築家の片山東熊で、明治末期の洋風建築を代表する建物として、1978年(昭和53)に重要文化財に指定されました。



**交通**

JR上野駅公園口・鶯谷駅より徒歩10分

京成電鉄京成上野駅、東京メトロ上野駅・根津駅より徒歩15分

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

<http://www.tnm.jp/>



## 光り輝く島 スリランカ 日本で初めての本格的な展覧会

東京国立博物館と読売新聞社は、2008年秋、スリランカ政府の全面的な協力のもと、特別展「スリランカ輝く島の美に会う」を開催いたします。

「光り輝く島」という意味を持つスリランカ。紅茶や宝石などで世界的に有名な同国には、2000年以上の長い歴史の中で人々が育んできた素晴らしい文化が存在します。

本展では、仏像やヒンドゥー神像、仏具などの宗教芸術作品や、美しい宝石をふんだんにあしらった宝飾品など、国宝級の作品を含む約150件、スリランカ美術の粋を一堂に集めて展覧いたします。スリランカの芸術作品をまとめて紹介する本格的な展覧会は日本では初めてであり、本展は同国の文化遺産の魅力を知るまたとない機会となることでしょう。

より多くの方々に本展をご覧いただけますよう、ぜひお力添えのほど、お願い申し上げます。

2008年5月  
主催者

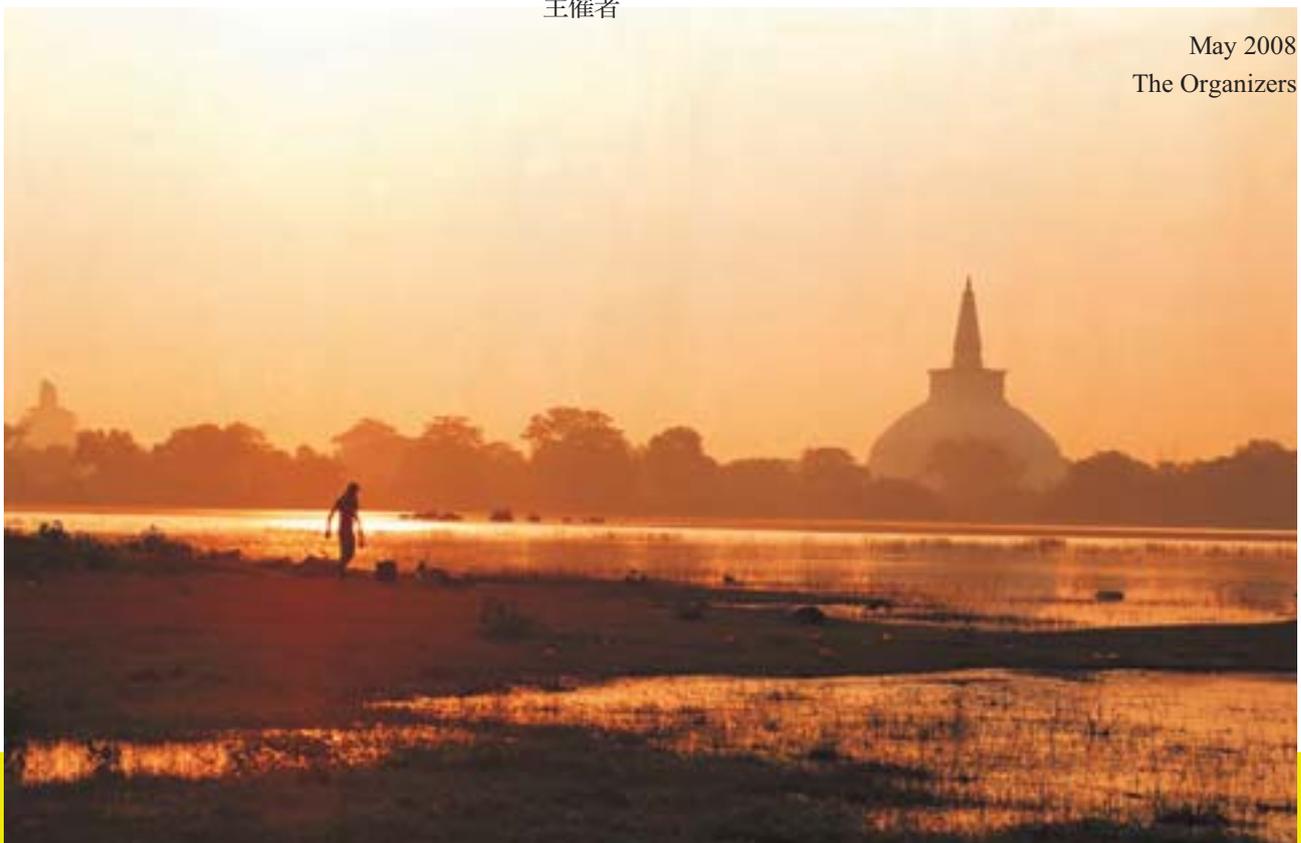
With the full and generous cooperation of the government of Sri Lanka, Tokyo National Museum and the Yomiuri Shimbun will hold the special exhibition "Cultural Heritage of Sri Lanka-The Land of Serendipity" this coming autumn.

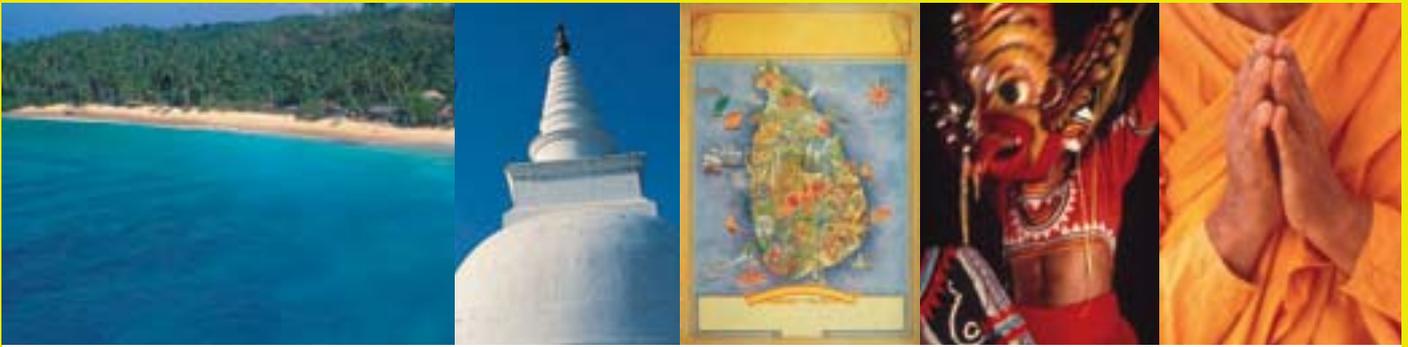
Sri Lanka, meaning "Resplendent Isle", is a country famed for its tea and gemstones, with a splendid culture which the people have developed throughout its history of more than 2000 years.

This exhibition will show as many as 150 artworks including the country's national treasures. Buddhist statues, Hindu statues, and jewelry decorated with beautiful gemstones will be on view as the first full-scale exhibition in Japan to introduce the arts and rich cultural heritage of Sri Lanka.

We greatly appreciate your interest and support.

May 2008  
The Organizers





# Sri Lanka



The Land of Serendipity



「インド洋に浮かぶ真珠（The Pearl of the Indian Ocean）」と称されるスリランカは、豊かな文化と自然に恵まれた美しい島国です。国土は北海道のひと回りほど小さい大きさで、その雫のような形から、「インドがこぼした一粒の涙（The Teardrop of India）」ともいわれます。かつては「セイロン」と呼ばれていたこの島は、1972年、シンハラ語で「光り輝く島」という意味をもつ「スリランカ」という国名に改名されました。

2000年以上続いたシンハラ王朝の時代から、スリランカは仏教王国として栄え、現在人口の約7割を占める仏教徒の大半は上座部仏教を信仰しています。一方で南インドから移住したタミル人を中心にヒンドゥー教が、アラビアの商人を中心にイスラム教が広まるなど、スリランカにはさまざまな民族・宗教が共存しています。本展に出品される文化遺産の数々はその悠久の歴史を雄弁に物語るものです。

## セレンディピティの国、スリランカ

「海のシルクロード」の中継基地として中東やローマとの交易が盛んに行われていた頃、スリランカはペルシア語で「セレンディップ (Serendip)」と呼ばれていました。その後、18世紀のイギリス人作家ホレス・ウォルポールが、スリランカを舞台にしたペルシアのおとぎ話『セレンディップの三人の王子』のストーリーから、「**思わぬ偶然から、価値あるものを発見すること、またその力**」を意味する「**セレンディピティ (serendipity)**」という言葉を作り、それが世界に広まりました。

スリランカにこれまであまり馴染みのなかった方も、「セレンディピティ」によって、本展で思わぬ発見や幸運に巡り会えるかもしれません。



特別展 スリランカ 特別宣伝部長

# ウィッキーさん からのメッセージ

Hello, everybody!

このたび本展の特別宣伝部長を務めることになりました、A・ウィッキーです。

私の故郷、スリランカ各地の素晴らしい文化遺産が日本で一挙に紹介されると聞いて、とても嬉しく思っています。

この展覧会をきっかけに、豊かな自然と文化を誇るスリランカの魅力をたくさんの方に知って欲しいと思いますし、私自身、展覧会を通じてその魅力を再発見できることを心から楽しみにしています。

日本のみなさんもこのまたとない機会をDon't miss out! (おみのがしなく!) ご来場をお待ちしています!

## Profile

A・ウィッキー (A. Wickie)

スリランカ生まれ。国立セイロン大学卒業。日本の文部省の国費留学生として来日。1979年より1993年まで日本テレビ「ズームイン!!朝!」で「ワンポイント英会話」のコーナーを担当し、お茶の間の人気を集める。現在はカルチャースクールなどで英会話を教えるとともに、全国各地で講演活動を行う。主な著書に『外国人から見た日本文化』『ウィッキーさんの1日1分!英会話』など。



## アロマセラピスト

# 大橋マキさん からのメッセージ

光の島スリランカは、スリランカの人たちの温かな笑顔が輝く島。そして、大自然に恵まれた薬草と香りの島です。古くから伝わるアーユルヴェーダも植物の恵みの賜物。いまでも健康に役立てられています。最近では、波音や鳥たちの声に包まれながらアーユルヴェーダ体験できるリゾートも注目を集めています。今回の展覧会では、そんな魅力あふれるスリランカの文化遺産の数々が公開されます。みなさんもぜひ見に来てくださいね!



## Profile

大橋マキ (おおはし まき)

神奈川県生まれ。フジテレビアナウンサーを退職後、英国に留学。イギリスで植物療法を学び、IFA認定アロマセラピスト資格を取得。現在は、アロマセラピストとして病院で活動するほか、執筆、翻訳、テレビ番組ナビゲーター、ラジオパーソナリティなど、様々な分野で活躍中。環境問題やLOHASをテーマにした番組、シンポジウムなどへの出演も多数。著書に『アロマの惑星』『日々香日』『セラピストという生き方』など。

# 大橋 マキ

# アヌラーダプラ時代

紀元前3～後11世紀

伝説によれば、スリランカはインドから来たヴィジヤヤ王子によって建国され、その子孫がアヌラーダプラに都を構えたという。これがシンハラ人の祖である。インドのアショーク王(前3世紀)の王子マヒンダは、当時のデーヴァナーンピヤティッサ王に仏教を伝え、上座部仏教が国家の庇護のもとで信仰を集めた。一方、大乘仏教や密教もスリランカに及んでおり、この時代の後半にはブツ像に加えて、比類ない美しさを具えた菩薩像も数多く作られた。仏教寺院は高度な技術を用いて建造された巨大な塔を中心に大伽藍が形成され、今も往時の仏教の隆盛ぶりがしのばれる。スリランカの仏教彫刻は、南インドの影響を強く受けているが、アヌラーダプラ時代後期には独自の様式が生まれた。

南インドのタミル人は紀元前からスリランカへの侵入を繰り返し、シンハラ人との間で覇権が争われた。インドで10世紀に台頭したチョーラ朝は、11世紀初めにスリランカの北部を支配、アヌラーダプラ時代は終わりをとげる。



## ■ヤクシニー

アヌラーダプラ  
ジェータヴァナ・ヴィハーラ出土  
4世紀  
石灰岩  
高37.6cm  
ジェータヴァナ博物館蔵

アヌラーダプラ時代前半期の仏教美術は、インドからの影響を強く受けている。この作品は石材や造型からみて、南インドから輸入されたと考えられる。ヤクシニーは三曲法とよばれる体をくねらせた姿態で立ち、頭上にはマカラ(怪魚)が大きく口をあける。建物入口の装飾として作られたものだろう。仏教の教えや僧侶のみならず、こうした作品や工人たちもインドから海を越えてスリランカへ渡り、この地の仏教文化の繁栄に大きな役割を果たしていたのである。

ジェータヴァナ・ヴィハーラ  
3世紀後半、マハーセーナ王によって創建され、以後12世紀まで栄えた。中心となる塔は、かつては高さ150m、直径100mを超える規模で、現存高は約70mであるが、なお威容を誇っている。ここから大乘仏教に関連する遺物が出土している。





ミヒンタレー  
ミヒンタレーはアヌラーダプラの東約12km、インドのアショーカ王が王子マヒンダを遣わして、スリランカに初めて仏教が伝えられた地として知られる。写真はマハーサーヤ塔。

## 2 観音菩薩坐像

アヌラーダプラ  
ウェラガラ・シリサンガボ・ヴィハーラ出土  
後期アヌラーダプラ時代・8～9世紀  
銅造鍍金  
高49.8cm  
コロombo国立博物館蔵

ゆったりとくつろいだ姿は、インドの坐法のうち、安楽坐と王のくつろぎの姿勢を組み合わせたもので、生身の肉体を思わせる写実性とあいまって独特の雰囲気醸し出している。右目には水晶が残り、頭部にはかつて貴石が嵌入されていた。髻中央には化仏を表していたと考えられる。大乘仏教の影響により観音以外にもターラーなどさまざまな菩薩像が制作されているが、類まれな美しさをそなえた本像は、スリランカ美術を代表する作例といつてよい。



## 3 如来坐像

アヌラーダプラ  
ウェラガラ・シリサンガボ・ヴィハーラ出土  
後期アヌラーダプラ時代・8～9世紀  
銅造鍍金  
高33.5cm  
コロombo国立博物館蔵



頭の上にシラスパタとよばれる火炎状の飾りをつけ、ぜんじょういん禪定印を結んで、蓮華座の上に坐す。右足を左足上に重ねるのは英雄の坐法といわれるもので、スリランカではもっぱらこの形式が用いられているが、これは南インドにみられるばかりでなく、東南アジアや中国へも伝わっており、いわゆる南伝の仏教の足跡を辿るひとつの手がかりとなる。面長で額がせまく、目がやや上寄りであって頬が大きくみえる顔立ち、後期アヌラーダプラ彫刻の特徴である。

# ポロンナルワ時代から諸王国時代

11～16世紀

1017年、インドのチョーラ朝によるスリランカ北部の支配が始まり、都がアヌラーダプラからポロンナルワへ遷る。ヴィジャヤバーフ1世(11～12世紀)がチョーラ朝を駆逐して以後、約2世紀にわたってここがシンハラ王統の都となった。チョーラ朝支配の間にヒンドゥー教が広まり、シヴァやヴィシュヌなどを祀る寺院が建立され、南インドと密接なつながりを示す彫像が作られる一方、仏教も再び保護されるようになり、仏歯をおさめた寺の建立や、ミャンマー(ビルマ)からの僧侶の招聘などが行なわれた。全島を統一したパラークラマバーフ1世やインド出身のニッサンカ・マッラの頃(12～13世紀)、王国は大いに繁栄し、ワタダーゲ寺院、巨大な仏涅槃像のあるガル・ヴィハーラなどが造営された。

13世紀に再びタミル勢力との争いによりポロンナルワが放棄され、ガンボラ、コーツテなどに都が遷り、16世紀にはポルトガルが進出した。

## 4 シヴァとパールヴァティー

アヌラーダプラ  
ジェータヴァナ・ヴィハーラ出土  
ポロンナルワ時代・11世紀  
青銅  
高43.0cm(シヴァ)  
高27.5cm(パールヴァティー)  
コロombo国立博物館蔵

シヴァはヒンドゥー教の3大神の1つで、パールヴァティーはその妃。この2点の出土した場所は、南インドのチョーラ朝の支配によってアヌラーダプラに居留したタミル人のために建造されたシヴァ寺院であったのだろう。シヴァの上方の手には斧(右)と羚羊(左)があったと思われる。チョーラ様式に近い造型であるが、シヴァの踏み下げる足は南インドでは右足が多いのに対して、本像では左足となっている。



ガル・ヴィハーラ  
ポロンナルワの王都中心からやや北にある。12世紀、パラークラマバーフ1世の造営。大涅槃仏は長さ約14mの巨大像。その横の腕を組んで立つ像(高約7m)は、ブツ像とも仏弟子のアーナンダー像ともいわれる。



マンダラギリ・ヴィハーラのワタダーゲ  
ポロンナルワの北約25km、メディリーギ  
リヤにある。9～13世紀頃に繁栄した。中  
央の塔を囲んで、四方に仏坐像が安置され  
る。林立する柱は、元来の建造物がもって  
いた屋根を支えるためのもの。

## 5 ガネーシャ

ポロンナルワ出土  
ポロンナルワ時代・12世紀  
石造  
高52cm  
コロンボ国立博物館蔵

ガネーシャは、シヴァとパールヴァティーの息子で、牙が1本だけの象の頭に太鼓腹の人間の姿で表される。水浴する母のため外で見張り番をしていたガネーシャは、父のシヴァまでも中に入れなかったため、怒ったシヴァに頭を切られ、その後最初に通りかかった動物の頭をつけて再生されたという。この像は腕が4本あり、斧（右上）、縄（左上）、牙（右下）、果物あるいは菓子鉢（左下）を持っている。ポロンナルワにおけるシヴァ信仰を物語る作例である。



## 6 カーライツカール・アンマイヤール

ポロンナルワ  
シヴァ・デーワレ出土  
ポロンナルワ時代・11世紀  
青銅  
高28.4cm  
ポロンナルワ歴史博物館蔵

老いやせ衰えた醜い姿のこの女性は、シヴァを信仰する女性の聖者である。元の名をプニタヴァティーといい、カーライツカール（南インド、タミル・ナードゥの一地名）の裕福な家に生まれた美しい女性であった。結婚後、夫は妻が聖者であることに気づき、妻のもとを去る。悲しんだ妻は全人生をシヴァへの帰依に捧げることを誓い、シヴァに自らの女性の美しさを奪うように祈ったのであった。手に小さなシンバルを持つが、これはシヴァのダンスを見ている様子を表している。

# キャンディ時代とそれ以後

16～20世紀

15世紀末、ヴィクラマバーフ王がコーッテから分離独立してキャンディ王国をおこす。16世紀には沿岸部がポルトガルの植民地となるが、島中央の山地部にあるキャンディは独立を守った。1658年、オランダによりポルトガルの勢力が一掃されるがキャンディはこれと共存した。18世紀にシンハラ王統がとどえた王国では、姻戚関係にあった南インドのナーヤカ王朝からヴィジャヤ・ラージャシンハを迎え、以後タミル王統が続く。衰退していた仏教の回復のため、タイ（シャム）やミャンマーから僧侶が招かれ、社会の幅広い層に仏教の門戸が開かれた。スリランカを代表する国民的な祭りであるペラヘラ祭は、この時期に仏歯を祀る国家行事となった。仏教彫刻ではブツダ像の制作がもつぱら行なわれ、また、この時代に象牙彫刻、工芸が非常に盛んになり、華麗な宝飾品が珍重された。

1815年、イギリスとの戦いに敗れて王国は滅び、植民地時代を迎えるが、1948年にイギリス自治領として実質的に独立した。



## 如来立像

キャンディ時代・18～19世紀

真鍮

総高24.0cm

コロンボ国立博物館蔵

キャンディ時代には仏教が復興し、ブツダ像が多数作られた。それ以前の南インドの影響を色濃く残す造型に対して、この時代にはスリランカ独自の様式が確立する。ブツダの衣には細かい襷がすき間なく刻まれ、耳を大きく作り、前代から引き続いて頭頂部にはシラスパタと呼ばれる火炎模様をつける。像を囲むアーチにはキールティムカとマカラという空想上の獣の意匠があしらわれ、その外で一對の守護神が剣を振り上げている。

## ペラヘラ祭

ペラヘラとは行列、行進の意。年に一度、ご神体を象の背中に乗せて練り歩き、豊穡や降雨を祈る祭りをペラヘラと称した。18世紀後半になって、この祭りに仏歯を入れた容器を乗せた象も加えられるようになる。祭りでは、多数の象が全国から集められ、にぎやかな行列が続く。



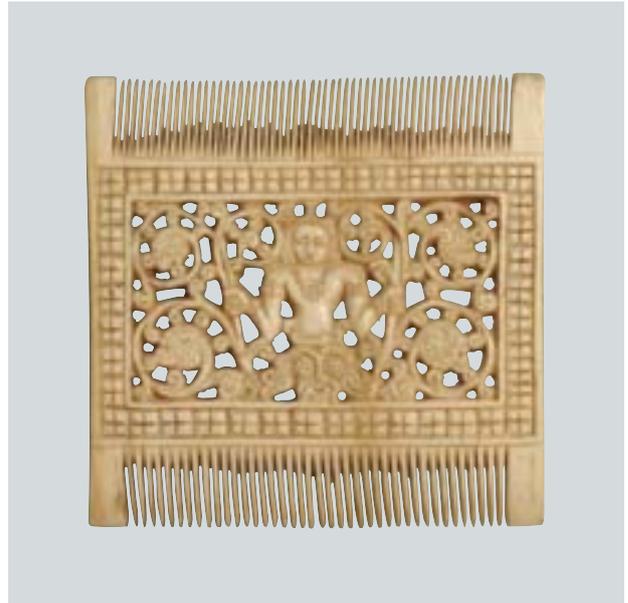


**仏歯寺**  
4世紀にインドから伝わったとされるブツダの歯は、歴代王朝によって大事に保管され、都が遷ることと一緒に運ばれてきた。16世紀末にキャンディに仏歯が運ばれ、これを祀る本寺院が造立されて以後、この地で丁重に祀られている。

## 8 櫛

キャンディ時代・18世紀  
象牙  
幅8.8cm、高8.7cm  
コロombo国立博物館蔵

スリランカをはじめ、南インド諸国では古代から象牙は重要な産品であり、主要な輸出品としても大きな役割を果たしてきた。キャンディ時代には、各種の工芸品のみならず仏教彫刻にも象牙が用いられるなど、素材への愛好がうかがわれる。この櫛は、あたかも蔓草から生まれ出でたような男子の上半身を透かし彫りの技法で表している。象牙職人は、金銀細工職人などと並んで、その社会的地位も高かった。



## 9 チューナム入れ

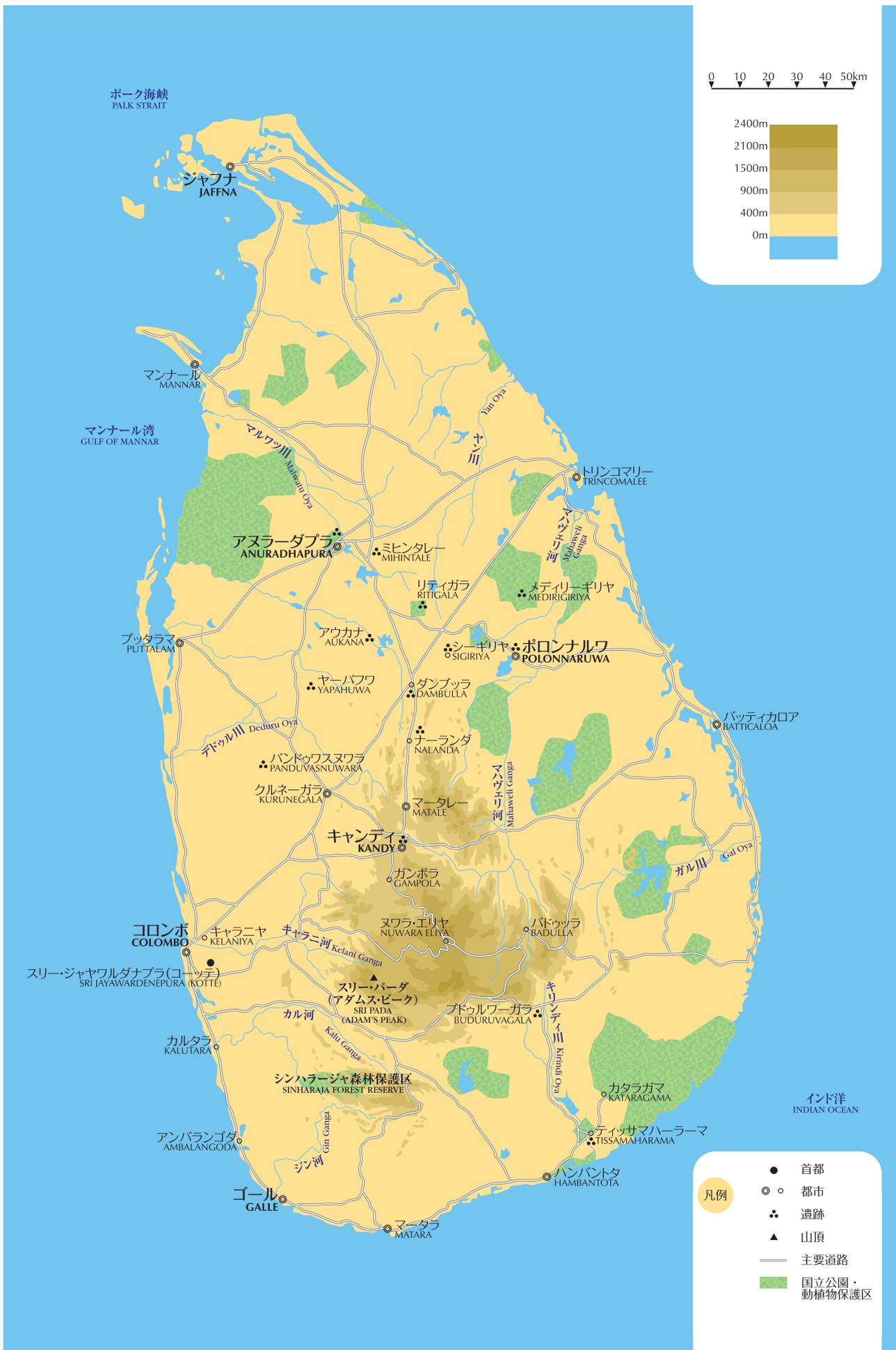
キャンディ時代・18世紀  
金、貴石  
総長30.6cm、箱径6.3cm  
コロombo国立博物館蔵

キャンディ時代には、王族、僧院、地方の首長らの支援により、金、銀、宝石、象牙などを用いた質の高い工芸品が数多く作られた。これはチューナム（石灰）を入れるためのコンパクト状の小箱で、ずっしりと重い金のボディに各種の宝石が埋め込まれて華麗な輝きを放っている。チューナムはキンマやビンロウなどと一緒に噛みタバコに用いられた。

# スリランカ歴史年表

時代区分	年代・世紀	出来事
	前30000~1000頃	中石器時代
	前900~300頃	初期歴史(鉄器)時代
	前5c	ヴィジャヤ来島伝説
前3c~1017  アマラーダブラ	前3c	デーヴァーナンプヤティッサ王の時、インドのマヒンダが仏教を伝来
	前3~2c	アマラーダブラにマハーヴィハーラ建立
	前145	タミル人エラーラ、アマラーダブラを陥れて即位
	前101	シンハラ人ドウッタガーマニー、エラーラを破りアマラーダブラを攻略
	前1c	アマラーダブラにアバヤギリ・ヴィハーラ建立
	3c後半	マハーセーナ、アマラーダブラにジェータヴァナ・ヴィハーラを建立
	4c前半	仏歯がインドから招来
	409	中国僧法顕、アマラーダブラに滞在(~411)
	5c	『マハーヴァンサ(大王統史)』の編纂
	5c後半	カッサパ1世、父王から王位を篡奪、シーギリヤに新王宮を建築 モッガラーナ、カッサパ1世から王位奪還、アマラーダブラへ還都
	684	マーナヴァンマ即位
	8c前半	ヴァジュラボーディ、スリランカを經由し中国に密教を伝える
	840	インドのパーンディヤ朝、アマラーダブラを占領
	862	セーナ2世、パーンディヤ朝の都マドゥライを攻略
	993	インド、チョーラ朝のラージャラージャ1世、アマラーダブラを攻略
1017	チョーラ朝、ミヒンドゥ5世を捕える。アマラーダブラからポロンナルワに遷都	
1017~1232  ポロンナルワ	1055	ヴィジャヤパーフ1世、チョーラ朝を破る
	12c	バラークラマパーフ1世、全土を統一
	1187	ニッサンカ・マッラ即位
1232~1272  ダンパデニヤ	1232	ヴィジャヤパーフ3世、ダンパデニヤへ遷都
	1247	マレー半島のジャーヴァカ王チャンドラパーヌ、スリランカへ侵攻
	1255	ポロンナルワを放棄
1272	ヤーパウワへ遷都	
1272~1293 ヤーパウワ	1293	クルネーガラへ遷都
1293~1340 クルネーガラ	14c	ジャフナ王国の成立
1341~1374  ガンボラ	1341	ガンボラに遷都
	1344	イブン・バットゥータの来島
1372~1597  コーッテ	1372	コーッテに遷都
	1410	明の鄭和、コーッテ王を拉致
1341~1374  ガンボラ  14c~1619 ジャフナ  1372~1597 コーッテ  1474~1815 ポルトガルの 西海岸、 北部支配  1521~1593 シタワカ  1505~1658 ポルトガルの 西海岸、 北部支配	1474	キャンディ王国成立
	1505	ポルトガルの植民地支配始まる。キリスト教(カトリック)の布教開始
	1517	ポルトガル、コロンボにシナモン貿易の拠点を築く
	16c中頃	コーッテとポルトガル、キャンディを攻略するが失敗
	1557	コーッテ王ダルマパーラ、カトリックに改宗、仏教と対立
	1597	コーッテ王国滅亡
	1617	キャンディ王セナラト、ポルトガルと条約締結
	1619	ポルトガル、ジャフナ王国を滅ぼす
	1658	オランダ、ジャフナを占領し、島からポルトガル勢力を追放、植民地支配開始
	1739	インド、マドゥライのナーヤカ族のヴィジャヤ・ラージャシンハ、キャンディ王に即位
1766~1796  オランダの沿岸 全域支配	1753	キャンディ王、タイのアユタヤより仏僧を招聘、サンガを復興、シャム派の基を築く
	1766	キャンディとオランダ間で和平条約締結。コロンボ、ゴール、トリンコマリーなど割譲
	1775	キャンディで開催のペラヘラ祭が、仏歯を中心とするものへ再構成
	1796	イギリス、オランダからコロンボなど奪取
	1802	アミアン条約。島内のオランダ領がイギリスに譲渡 仏教のアマラバラ派が設立
1815~1948  イギリスの植民地	1815	イギリス、キャンディ王国を滅ぼす
	1832	イギリス、島全体の一元的支配を確立
	1867	紅茶の栽培開始
	1891	ダルマパーラ、大菩薩会を創立
	1919	セイロン国民会議の結成。独立活動の開始
	1948	英連邦内自治領として実質的に独立
1948 英連邦内自治領	1948	英連邦内自治領として実質的に独立
1972 スリランカ共和国	1972	新憲法公布、共和国として完全に独立
1978 スリランカ民主社会主義共和国	1978	国名をスリランカ民主社会主義共和国に変更

# スリランカ地図

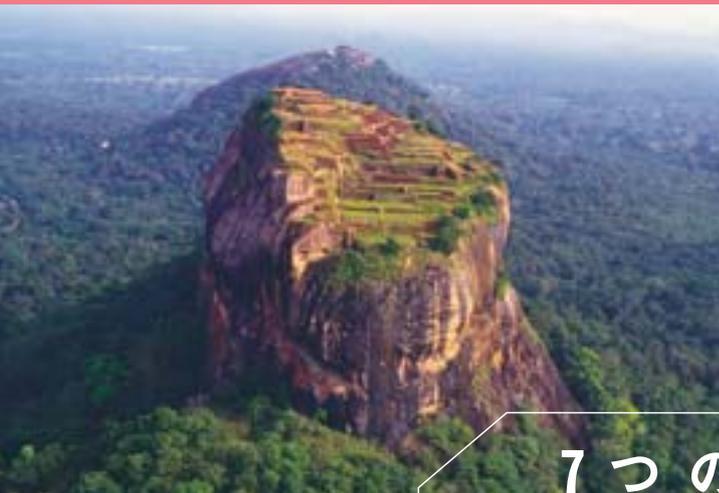


# スリランカの魅力

“The island of Ceylon is a small universe”

『2001年宇宙の旅』などの名作で知られる、20世紀を代表するSF作家の巨匠、アーサー・C・クラーク(1917~2008)は、スリランカに移り住み、コロンボでその生涯を閉じました。彼は、小さな島国でありながら多様な魅力を秘めたスリランカについて、「セイロン

島(現在のスリランカ)は、ひとつの小宇宙だ(The island of Ceylon is a small universe)」という言葉を残しています。ここでは、人々の心を引きつけてやまないスリランカの魅力の一部をご紹介します。



## 7つの世界遺産

7 World Heritage Sites

紀元前から栄えたスリランカの最古の都であるアヌラダプラ、鮮やかな色彩で美女を描いた壁画を残す岩山のシーギリヤ、また手つかずの熱帯雨林に多くの動植物が生息するシンハラージャ森林保護区など、スリランカにはユネスコによって指定された文化遺産

が6つ、自然遺産が1つ、合計7つもの世界遺産があります。

本展では、美術品とともに、こうしたスリランカが誇る世界遺産についてもパネル展示し、わかりやすくご紹介する予定です。

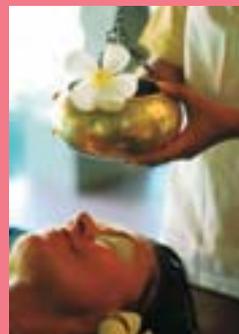


## アーユルヴェーダ

Ayurveda

アーユルヴェーダはサンスクリット語で「生命の科学」や「生きる知恵」という意味をもつ、遥か4000年以上の歴史をもつ伝統医療です。インドと並んでアーユルヴェーダの聖地といわれるスリランカでは、医療という枠を超えて、生活全体にアプローチするアーユ

ルヴェーダの思想が広く浸透しています。スリランカのリゾート地には、ハーブオイルなどを使ったマッサージやトリートメントなどアーユルヴェーダの施術を気軽に受けられるところもあり、美容と健康を求める旅行客の間で人気が高まっています。



## 紅茶

Tea



スリランカといえばウバ、ヌワラ・エリヤ、ディンブラなどで生産される「セイロンティー」が有名です。紅茶は同国の主要輸出品のひとつであり、その生産量は世界で第2位を占めるほどです。香り高くコクがあ

るセイロンティーは世界で愛され、特にウバはインドのダージリン、中国のキーマンとともに世界三大紅茶のひとつに数えられています。



## 宝石

Gemstones



スリランカは宝石の産地としても世界的に有名です。キャッツアイ、サファイヤ、ルビー、ムーンストーンなど、スリランカで採れる美しい宝石の数々は古くから諸外国の憧れの的でした。紀元前10世紀にソロモン王がシバの女王に贈ったとされるルビーも、英

国のチャールズ皇太子がダイアナ妃に贈った婚約指輪のブルーサファイアも、スリランカ産であるといわれています。本展にも、このスリランカが誇る宝石を散りばめた宝飾品の数々が出品されます。



## ビーチ

Beaches



インド洋に囲まれたスリランカの南西海岸には褐色のビーチが100km以上も続き、別名「黄金海岸」と呼ばれています。個性的なホテルがリゾート群を形成し、サーフポイントもあり、特にヒッカドゥワはサーフィンの

メッカとして知られています。内陸を埋めるジャングルや遺跡群とはまた違った、もうひとつのスリランカの顔がここにあります。



## 野生の動物たち

Wild Animals



自然に恵まれたスリランカには、100以上の国立公園や自然保護区があり、多くの動物たちが生息しています。ゾウをはじめ、ヒョウ、クジャク、サルやワニ

など多様な生き物たちに出会うことができ、サファリツアーが人気を集めています。

特別展  
スリランカ  
輝く島的美に出会う



# 特別展 スリランカ

## 写真借用および読者プレゼント用招待券申し込み書

本用紙をFAX 03-3664-3833 広報事務局宛にご送付ください

### 1. 本展をご紹介いただけますでしょうか？

はい 検討中（ 月 日ごろ決定）

### 2. ご紹介いただける場合、いつ頃の発売／配布・放送で、どのような内容になりますか？

決定／ 月 日発行（ 月号）・放送 未定／

掲載面（ページ）内容・番組名などをご記入ください。

（発行部数／ 放送エリア／ ）

### 3. ご紹介頂ける場合、写真はご使用になりますか？

はい

ご希望の写真番号（リリース冊子のP6～11に掲載されている作品画像をご参照ください）に○をつけてください

写真番号	作品クレジット「作品名」年代／所蔵先
1	「ヤクシニー」4世紀／ジェータヴァナ博物館蔵
2	「観音菩薩坐像」後期アヌラーダプラ時代・8～9世紀／コロンボ国立博物館蔵
3	「如来坐像」後期アヌラーダプラ時代・8～9世紀／コロンボ国立博物館蔵
4	「シヴァとパールヴァティー」ポロンナルワ時代・11世紀／コロンボ国立博物館蔵
5	「ガネーシャ」ポロンナルワ時代・12世紀／コロンボ国立博物館蔵
6	「カーライッカール・アンマイヤール」ポロンナルワ時代・11世紀／ポロンナルワ歴史博物館蔵
7	「如来立像」キャンディ時代・18～19世紀／コロンボ国立博物館蔵
8	「櫛」キャンディ時代・18世紀／コロンボ国立博物館蔵
9	「チューナム入れ」キャンディ時代・18世紀／コロンボ国立博物館蔵
10	展覧会ロゴ① 
11	展覧会ロゴ② 

●作品写真をご利用の際には、上記作品クレジットを必ず明記してください。改変、トリミング、文字のせはせず、必ず全図でご掲載ください。●貸出写真はデータのみになります。●写真の使用目的は本展のご紹介のみとさせていただきます。本展覧会の終了後の使用はできませんのでご了承ください。●その他の素材の使用につきましては広報事務局へお問い合わせください。○確認のため、必ずゲラの段階で広報事務局に原稿をFAX送信してください。○ご掲載いただいた場合、掲載紙/誌を2部、または同録ビデオ・DVDなどを広報事務局にご送付下さいますよう、お願い申し上げます。

### 4. ご紹介いただける場合、読者プレゼント用招待券（5組・10枚まで）をご希望されますか？

※ただし、写真つきでご紹介いただける場合は、10組分までご提供させていただきます。

お届けは掲載紙/誌をご送付いただいてからとなりますので、あらかじめご了承ください。

はい（ご希望枚数： 枚） いいえ

貴媒体名		
貴社名／部署	ご担当者名	
e-mail		
ご住所〒		
ご連絡先	TEL：	FAX：

《広報の問い合わせ先》

特別展「スリランカ」広報事務局（ウインダム内／担当：沼澤、植松）

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F

TEL：03-3664-3831 FAX：03-3664-3833 E-mail：srilanka@windam.co.jp